

# 市長の海外出張について

## 1 概 要

第 11 回核不拡散条約 (NPT) 再検討会議第 1 回準備委員会に、被爆地長崎の市長、そして平和首長会議の副会長として、市長がこの会議に出席し、国連・各国政府関係者等に対し、スピーチや個別の面会を通じて、核兵器廃絶のアピール活動を展開した。

2 期 間 令和 5 年 7 月 29 日 (土) ~ 8 月 4 日 (金) 4 泊 7 日

3 出張先 オーストリア・ウィーン市

4 出張者 長崎市長 (平和首長会議副会長) 鈴木 史朗 他 2 人

## 5 主な用務

### (1) 第 11 回 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会 NGO セッションでのスピーチ (8 月 2 日)

松井市長 (広島市長、平和首長会議会長) と共に、鈴木市長は平和首長会議の代表として行ったスピーチで、「核兵器使用をタブー視する風潮」の低下を問題提起し、被爆の実相を知ることの大切さを訴えた。また、世界の 9 割の核弾頭を保有する米ロに対し、核軍縮のリーダーシップを求めるとともに、新 START の後継について交渉を開始するよう要請した。そして、今回の準備委員会が、大きく揺らいでいる NPT 体制を国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石として堅持・強化していく契機となることへの期待を述べスピーチを締めくくった。



鈴木市長によるスピーチ

### (2) 国連関係者等との面会

#### ア 中満国連事務次長兼軍縮担当上級代表への署名の手交及び面会 (7 月 31 日)

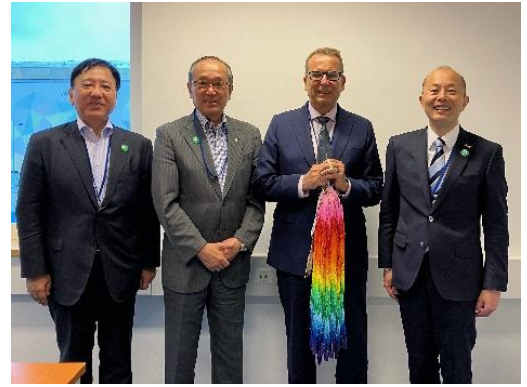
高校生代表から中満国連事務次長に、4 万 4, 373 筆分の「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名の目録を手交した。中満国連事務次長は、被爆地の若い世代が核兵器をどう廃絶していくか真剣に考え、街頭に立って署名を集めるという実際の行動に移し、核軍縮にコミットしていることに勇気づけられたと述べられるとともに、若者には、恐れることなく活動を続け、自分たちの声をどんどん上げてほしいと激励された。



中満国連事務次長との面会

## イ ヴィーナネン第 11 回NPT再検討会議第1回準備委員会議長との面会（8月1日）

G7広島サミットで各国首脳が被爆の実相に触れたことを言及するとともに、厳しい国際情勢の中で、新たなプロセスの出発点となる今回の準備委員会に対する期待を伝えた。加えて、核兵器の問題を自分事として捉えてもらうためには被爆の実相を知ることが重要であることから、被爆地訪問の働きかけをお願いした。これを受けて議長は、被爆地からの平和のメッセージは、今回の会議に参加する全ての代表団にとって重要なものであると述べられるとともに、核軍縮・不拡散の先に「核兵器のない世界」があり、核軍縮が進展しない状況を変えなくてはならないとの見解を示された。



ヴィーナネン議長との面会

## (3) 各国政府代表との面会

### ア G7参加国

松井市長から、G7広島サミットで各国首脳が被爆の実相に直接触れ、芳名録へ記載されたこと、また、その内容から、世界恒久平和の実現を祈念し、核兵器は二度と使われてはならないとの被爆地の思いを深く理解していただいたことの見解を伝えた。鈴木市長からは、核兵器廃絶に向けて具体的な行動を要請するとともに、各国のリーダーや若者による被爆地訪問を要請した。

また、小笠原軍縮会議日本政府常駐代表に対しては、核兵器禁止条約の第2回締約国会議へのオブザーバー参加を要請した。



プティ軍縮会議フランス政府常駐代表  
（左から2人目）（8月1日）



リドル軍縮会議英国政府常駐代表  
（右から1人目）（8月1日）



シャインマン米国大統領特別代表（核不拡散担当）  
（左から2人目）（8月2日）



小笠原軍縮会議日本政府常駐代表  
（中央）（8月2日）

## イ その他の国

G7広島サミット招待国のブラジルの代表との面会では、近いうちに核兵器禁止条約を批准する見通しであると述べられた。これに対して鈴木市長は、ブラジルの批准が日本政府を条約の参加を促す後押しになることへの期待を述べられた。核兵器禁止条約第1回締約国会議で、第2回締約国会議までの間、カザフスタンと共に、被害者支援、環境修復、国際協力・支援に関する非公式作業部会の共同議長を務めるキリバスの代表との面会では、条約の加盟国拡大と規範強化に向けて連携して取り組んでいくことを確認した。その他にも、各国からの出席者と意見交換を行った。



ダミーコ軍縮会議ブラジル政府常駐代表  
(右側中央) (7月31日)



シト国連キリバス政府代表大使  
(8月1日)

## (4) イベントへの出席等

### ア 平和首長会議ユースフォーラムへの出席(8月1日)

同準備委員会の NGO サイドイベントとして開催した本フォーラムは、立ち見が出る盛況の中、広島の高中生やナガサキ・ユース代表団を始めとする世界各国の若者8組が、核兵器廃絶と平和な世界の実現に向けて自らが行っている活動内容を発表し、活動を通じて感じた平和を希求する思いを共有した。参加者からは、日本の若者の取組に感銘を受けた、ここに集った若者が連帯しネットワークを構築し、共に目標に向かって歩んでいきたいといった決意の言葉が聞かれた。フォーラムの最後には、中満国連事務次長から、次代を担い強い意志を持つ若者の皆さんには、国際関係や軍縮について深く学び、政府や外交官を突き動かすことができるような効果的な発信をする存在になってほしいと激励の言葉をいただいた。鈴木市長は閉会挨拶で、フォーラムへの参加を通じて知り合いになった皆さんと交流を深めて、平和のネットワークを広げられることへの期待を込め挨拶を締めくくった。



フォーラムの様子

## イ 平和首長会議役員都市意見交換会への出席(7月31日)

広島市、長崎市、ポルトガル・エヴォラ市、ベルギー・イーペル市、スペイン・グラナダ市の5つの役員都市が出席し、各都市における取組発表及び活発な意見交換を行った。鈴木市長は、長崎市における「平和の文化」の醸成に向けた取組について発表を行った。



意見交換会の様子

## ウ ナガサキ・ユース代表団主催 NGO サイドイベントへの出席(8月3日)

長崎の学生と平和への想いを語り合い、書道を通じて想いを表現しながら相互理解を図ることを目的とした本イベントの開会挨拶で鈴木市長は、一人ひとりが平和をつくることが大切であること、そして平和は様々な形で取組むことができ、書道のその方法の一つであること、そしてイベントを通じて平和への想いを共有し、平和の輪を広げていってほしいことを述べられた。



サイドイベントの様子

## エ 平和首長会議原爆展(7月31日～8月11日)

同準備委員会の会期中、会場内において、会議参加者や国連関係者に、広島・長崎の被爆の実相や核兵器の非人道性、平和首長会議の取組について理解を深めてもらうため、平和首長会議原爆展を開催している。7月31日には、武井外務副大臣が原爆展を視察し、鈴木市長と松井市長から展示内容の説明を行った。



展示を視察される武井外務副大臣